

中山間地域における集落間連携の現状と課題 ー中山間地域等直接支払での複数集落 1 協 定に着目してー

橋詰 登

今後、農家数の減少による農業集落の小規模化がさらに進むと想定される中、農作業や地域資源管理等における集落間連携の取組は、中山間地域の振興を図っていく上での重要な手段の 1 つと考えられる。本研究では、農業集落の範囲と中山間直払制度に基づく集落協定の締結範囲との関係に着目し、農業集落の類型化を図った後、複数の農業集落で 1 つの集落協定が締結されている農業集落および集落協定の実態を、統計分析と事例調査の両面から検討し、集落間の連携を図っていく上での課題整理を行った。

集落連携を推進していくための課題は以下のとおりである。

第 1 に、中山間直払制度の 2010 年度以降の継続である。集落間の連携を図って様々な活動を展開している集落においては、本制度がこれら活動の契機となり、財政的な裏付けにもなっていた。地域住民の力で課題克服に歩み出した多くの集落が、再び後戻りすることのないように、中山間直払制度の継続が求められている。

第 2 に、農地・作業の受け手となる担い手や集落営農組織づくりと一体となった取組の必要性和支援のあり方である。個別担い手が少ない中山間地域で、高齢農家等の農地や作業の受け手になる可能性があるのは集落営農組織であろう。しかし、圃場条件が劣悪で高齢化が進み、零細規模の飯米農家が多い中山間地域では、経営体としての組織化が図れるところはごく僅かである。当面は、資源管理型の集落営農組織の育成やその活動に対する支援を行っていく

ことが、集落間の連携をスムーズに進めていく上でも重要である。

第 3 に、耕作者以外の地域住民を取り込んだ活動への展開とそれに対する支援についてである。集落を超えた連携はマンパワーの増加となり、農地等の管理活動のみならず、集落の景観保全活動や都市との交流事業等、幅広い取組に発展する可能性を持っている。集落間の連携は農家以外の地域住民を取り込むチャンスでもあり、非農家世帯の参加を如何にして政策的に誘導していくかについても検討の余地がある。

第 4 に、地域リーダーの育成ときめ細かなサポート体制の整備である。集落間での連携を図っていく上で、最も重要な要素となるのがリーダーの存在である。しかし、複数の集落をまとめていける力量を持ったリーダーが存在するところはそう多くない。各集落の実情を的確に把握し、適切なアドバイスを行っていける人材を配置するための組織体制作りや人材育成、サポート活動に対する一体的な支援のあり方を早急に検討する必要がある。

第 5 に、個々の農業集落の主体性の尊重と、出来るところから連携を図っていくことの重要性についてである。各集落で独自にできることは個々の集落にまかせ、単独で出来なくなったところから順次連携を進めていくことが、集落間の連携を推進して行く上で最善の方法であり、複数集落間での集落協定の統合は、その先導的役割を果たしている。

なお、本報告は、平成 20 年度行政対応特別研究「中山間地域振興のための集落間連携の推進方策に関する研究」の研究成果であり、詳細は近日刊行予定の行政対応特別研究〔集落間連携〕研究資料「中山間地域における集落間連携の現状と課題」を参照されたい。